横浜市立 西が岡小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 元 ~ 3 年度 ）

重点取組分野	令和　元　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①領家中学校ブロック全体で、地域の子どもの課題を共有し、主体性や自己肯定感を育むための授業改善に努め、思考力・判断力・表現力等の資質能力を育成する授業実践を推進する。②体験的な活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自分の考えや思いを豊かに表現できる子どもを育てる。	①ブロックで授業参観や検討会を通して、児童の実態把握や9年間の目指すべき子どもの姿の共有を領家中ブロックで行うことができた。 ②生活・総合という教科を通して、人や材との出会いを大切にした。子どもの主体的な姿や対話をする姿が、発達段階ごとに見られた。	A
豊かな心	①だれもが、安心して、豊かにを基盤にした学校づくりを推進し、特設音楽クラブや音楽朝会、生き物体験活動等を充実して、豊かな感性を育む教育の充実を図る。②縦割り異学年交流活動を進めることで、友だちや自分のよさに気づき、個性の伸長や自己肯定感を共に高め合う子どもを育てる。	①生活科や総合の学習を中心に、重点研究主題にあるような進んで人とかかわり合い、自分の思いを豊かに表現することができた。また体験活動も充実したものになった。②年間を通して縦割り活動やペア学年などの異学年交流を通して自分のよさに気付き自己肯定感を高めることができた。	A
健やかな体	①集会や中休みを活用して体力づくりにつながる取組（いきいきキッズ、縄跳び大会等）を行い、運動の思考力やコミュニケーション力の育成、達成感や成就感を味わい自尊感情を高める。②子ども主体の運動会を計画し、生涯にわたり体力向上に取り組む心情を養う。	①ドッジボール大会や長縄大会、短縄月間などを通して、全校児童が楽しんで運動に取り組む機会を作ることができた。②運動会委員会の活動を中心に、準備、当日の運営に主体的に関わった。各委員会で児童がよく考え、様々な工夫をして運動会をよりよいものにしようとする姿が見られた。	A
特別支援教育	①子どもの実態や保護者の願いを踏まえて個別の教育支援計画を立て、継続的な支援ができるように校内支援体制を整備し、それぞれの子どもや保護者のニーズに合った丁寧な支援を行う。 ②通級指導教室や関係機関と連携して、様々な相談、支援が行えるようにする。	①個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成がなされるよう、チェック体制を整えた。計画に基づいて継続的な支援を行った。②療育センターにコンサルテーションを依頼したり、通級指導教室の教員と相談したりするなどして連携に努め、支援に生かした。	A
地域連携・学校運営協議会	①教育活動への保護者、地域人材等の教育力の活用、地域行事や地域奉仕活動への児童、教職員の参加などの取組を計画的に実施し、開かれた学校づくりを進める。②学校HPや学校説明会を充実させ、学校の様子や取組を地域や保護者と共有すると共に、学校地域コーディネーターの行う土曜事業を推進する。	①協力的な保護者たちの存在で、活発な活動が行われている。しかし、英語サポーターがなくなるなど、担い手が減り始め、仕事等が理由で参加をためらう様子も見え始めているのは課題。②毎年充実したHPが作られ、学校説明会も安定した参加者がいる。今年度も土曜事業は盛んだった。	A
安全管理	①子どもが安心して安全に学校生活を送ることができるように、設備の点検や安全な教育環境の整備に努める。②登下校の交通安全及び不審者侵入防止等の安全対策、災害時の避難訓練等の対応を全教職員が計画的・協働的に図る。	①専任が朝会で交通マナーについて話をする機会を何度か設けた。②登下校の安全を確保するために、横断歩道における交通安全の見守りを充実させた。また、地域と連携して、防災拠点訓練に参加することで、地域の一員としての防災意識が高まった。来年度は体験活動を充実させたい。	B
いじめへの対応	①月1回の定期的いじめ防止委員会を柱に緊急いじめ防止委員会を併設し、該当児童から丁寧に聞き取りを行い再発防止を職員全体で考え対応に努める。 ②年1回の全職員を対象とした研修と年1回の児童アンケートにより、日々の児童の生活全体に注意の目を配り、未然防止に努めるとともにいじめを見逃さない体制づくりを行う。	①月一回の定期的ないじめ防止委員会で職員全体に迅速ていねいに共通理解を行い、学校全体で共通した児童対応を行うことができた。②夏休みの職員研修では本校の過去の具体的事案について職員全員で自分事として話し合い初期対応と未然防止につながる児童の様子を見逃さないことの大切さを確認することができた。	A
人材育成・組織運営（働き方改革）	①学年研や重点研究等を通し、教科指導力や学級経営力、児童理解力を高め、教職員の人材の育成と指導力の向上を図る。②学年やブロック内での交換授業等、子どもの実態に応じた指導の充実を図る。③事前に資料を配付するなどの工夫で会議の効率化を図り、グループウエアの活用で情報の共有化を一層進め働き方改革につなげる。	①重点研究を通して、教員の児童理解にとどまらず、教科指導力、学級経営力を高めることにつながった。②教員一人一人が学級担任だけでなく、学年担任、学校担任の意識をもち、柔軟な指導体制で臨むことができた。③会議の精選、事前に資料を配付することなどで会議の効率化が図られ、労働資源の有効活用ができた。	B
ブロック内評価後の気付き	小中一貫の取り組みでは、校種間でお互いの重点や課題について理解し合い共有できる部分を広めることができ、授業の様子や、児童生徒の実態についての理解を深めることができた。人権教育では、各校の各クラスの人権の取り組みを今年も共有できた。職業体験では、事前指導が効果を上げ、めあてと意欲をもって参加できた。結果、例年以上に有意義なものになった。また、児童生徒の交流により、今年も中学生や中学校生活に対するあこがれと目標を小学生の中に育てることができた。来年度以降において、事後の振り返りを位置付けることを念頭に置いて取り組みたい。		
学校関係者評価	保護者のほとんどが西が岡小出身でないということで、その子どもたちに地域への愛着・愛情を育てるのは難しいものがあり、今後、この課題解決のための知恵を出し合っていく必要がある。体力作りに課題が見られるが、スマホのゲーム等を親が注意してもやめられない現実があり、また、運動する場も少ない中で、体力向上のための教育活動や家庭教育の工夫・努力が求められる。道徳が教科化されたが、昔の授業と違い、子どもたちが自分の頭で考え話し合える授業になってきているのは望ましいことである。一方で、道徳や生活習慣の定着は家庭に大いに責任がある。家庭教育への意識喚起も地域として働きかけていきたい。		
中期取組目標振り返り	授業を核に、体験的、問題解決的教育活動を推進し、「自分大好き」「みんな大好き」「ひとみかがやく西が岡の子」を育てることに関しておおむね実現できたと考える。引き続き、自己肯定感や主体的な態度、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成する授業に取り組みたい。様々な困難や不測の事態にも、教職員一人一人が自分のできること・すべきことを考え、実行し、学校運営に主体的に参加した。家庭、地域、関係機関と細やかに連絡を取り合い、学校運営協議会も生かして地域に応援していただきながら学校創りを進めた一年だった。次年度は、子どもたち自身が「地域の一員である。」という意識をもてるよう教育課程の改善を図っていきたい。		

重点取組分野	令和　2　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①領家中学校ブロック全体で、地域の子どもの課題を共有し、主体性や自己肯定感を育むための授業改善に努め、思考力・判断力・表現力等の資質能力を育成する授業実践を推進する。②体験的な活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自分の考えや思いを豊かに表現できる子どもを育てる。	①ブロックで授業参観を通して、児童の実態把握や9年間の目指すべき子どもの姿の共有を領家中ブロックで行うことができた。②生活・総合という教科を通して、材との出会いを大切にし、子どもが主体的に問題を解決しようとする姿や対話を通して思いを表現する姿が、発達段階ごとに見られた。	A
豊かな心	①だれもが、安心して、豊かにを基盤にした学校づくりを推進し、特設音楽クラブや音楽朝会、生き物体験活動等を充実して、豊かな感性を育む教育の充実を図る。②縦割り異学年交流活動を進めることで、友だちや自分のよさに気づき、個性の伸長や自己肯定感を共に高め合う子どもを育てる。	歌や音楽を通して情操教育を図る目標であったがコロナ禍のため制限されることが多く、活動としては充実したものとは言えない部分がある。縦割り活動や当別活動では、制限が多く活動期間の短い中でも、高学年中心に充実した交流が行われていた。	B
健やかな体	①集会や中休みを活用して体力づくりにつながる取組（いきいきキッズ、縄跳び大会等）を行い、運動の思考力やコミュニケーション力の育成、達成感や成就感を味わい自尊感情を高める。②子ども主体の運動会を計画し、生涯にわたり体力向上に取り組む心情を養う。	①今年度も実施可能な方法を工夫しながら、長縄大会、短縄月間などを通して、全校児童が楽しんで運動に取り組む機会を作ることができた。②運動会委員会の活動を中心に、準備、当日の運営に主体的に関わった。児童が意欲的に様々な工夫をして運動会をよりよいものにしようとする姿が見られた。	A
特別支援教育	①子どもの実態や保護者の願いを踏まえて個別の教育支援計画を立て、継続的な支援ができるように校内支援体制を整備し、それぞれの子どもや保護者のニーズに合った丁寧な支援を行う。 ②通級指導教室や関係機関と連携して、様々な相談、支援が行えるようにする。	①個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成がなされるよう、チェック体制を整えた。計画に基づいて継続的な支援を行った。②療育センターにコンサルテーションを依頼したり、通級指導教室の教員と相談したりするなどして連携に努め、支援に生かした。	A
地域連携・学校運営協議会	①教育活動への保護者、地域人材等の教育力の活用、地域行事や地域奉仕活動への児童、教職員の参加などの取組を計画的に実施し、開かれた学校づくりを進める。②学校HPや学校説明会を充実させ、学校の様子や取組を地域や保護者と共有すると共に、学校地域コーディネーターの行う土曜事業を推進する。	①協力的な保護者たちの存在で、活発な活動が行われている。里山プロジェクトとの連携で地域のまちおこしの一躍を担う活動なども行った。②感染対策で、集合を伴う行事は行えなかった。本年度はHPでの学校教育活動の発信や紙面での教育活動の振り返りの発信を行った。	B
安全管理	①子どもが安心して安全に学校生活を送ることができるように、設備の点検や安全な教育環境の整備に努める。②登下校の交通安全及び不審者侵入防止等の安全対策、災害時の避難訓練等の対応を全教職員が計画的・協働的に図る。	①専任が朝会で交通マナーについて話をする機会を何度か設けた。②登下校の安全を確保するために、横断歩道における交通安全の見守りを充実させた。なかなか避難訓練を実施することはできなかったが、各クラスで担任が安全教育を行い、安全意識の向上に努めた。	B
いじめへの対応	①月1回の定期的いじめ防止委員会を柱に緊急いじめ防止委員会を併設し、該当児童から丁寧に聞き取りを行い再発防止を職員全体で考え対応に努める。 ②年1回の全職員を対象とした研修と年1回の児童アンケートにより、日々の児童の生活全体に注意の目を配り、未然防止に努めるとともにいじめを見逃さない体制づくりを行う。	①定期開催時には全職員に共通理解と共通対応の徹底を図ることができた。随時開催時には、関係職員と専任と管理職で委員会を迅速に立ち上げ即日対応の徹底に寄与した。②本校のいじめ認知の状況の特色を具体的に提示し傾向を明確にするとともに、未然防止に向けて日々の児童の様子をていねいにみとることを実践できた。	A
人材育成・組織運営（働き方改革）	①学年研や重点研究、メンター研修等を充実させ、教科指導力や学級経営力、児童理解力を高め、教職員の人材の育成と指導力の向上を図る。②学年やブロック内での交換授業や合同授業、教科担任制等、柔軟な指導体制を取り入れ、子ども一人ひとりに応じた指導の充実を図る。③事前に資料を配付するなどの工夫で会議の効率化を図り、グループウエアの活用で情報の共有化を一層進め働き方改革につなげる。	①重点研究・メンター研を通して、児童一人ひとりの理解を深めながら、クラスや個の課題に応じた指導をするよう努めた。②教員同士で授業を見合ってふり返るなど、授業改善に取り組み組織的に教科指導力を高めた。③資料をデータ化することで、手間を省き会議の効率化を図ることができた。	A
ブロック内評価後の気付き	令和2年度は、感染症拡大防止対応のため、予定していた児童生徒交流日や小中合同の挨拶運動は実施を見合わせた。直接の交流は見合わせたが中学校生徒会が学校紹介DVDを作成してくださり、中学校生活に希望を持つことができた。その他にも、人権標語の作成掲示して児童生徒間の交流を図った。教職員は、互いに訪問して児童生徒の様子を把握できるようにした。地域行事が中止となったため児童や音楽クラブが参加できなかったが次年度は感染症拡大防止に努めつつ、可能な限り、児童生徒、職員間の交流や情報共有を図りたい。		
学校関係者評価	臨時休業明け、限られた条件下ではあったが、書面開催を含む3回の学校運営協議会を行い、うち1回は授業参観も行った。さらに日頃の校外における児童の様子や学校便り等の発信物から教育活動についての評価を頂いた。その結果、ほとんどの委員の方から、コロナ禍の中であっても今年度の本校の教育活動について肯定的な評価（AまたはB）を頂くことができた。感染予防に配慮しながら修学旅行や運動会などを工夫して行ったことが評価の理由に挙げられた。		
中期取組目標振り返り	6月からの教育活動という異例の状況であり、かつ、コロナ禍の中、様々な制限がある中で、本年度も、授業を核とした、体験的、問題解決的教育活動を推進し、「自分大好き」「みんな大好き」「ひとみかがやく西が岡の子」の育成に取り組んだ。次年度も、感染予防に配慮しながら、自己肯定感や主体的な態度、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成する授業に引き続き取り組みたい。		

重点取組分野	令和　3　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①領家中学校ブロック全体で、地域の子どもの課題を共有し、主体性や自己肯定感を育むための授業改善に努め、思考力・判断力・表現力等の資質能力を育成する授業実践を推進する。②体験的な活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自分の考えや思いを豊かに表現できる子どもを育てる。	①領家中ブロックでの授業参観を通して、児童の実態把握や子どもの姿の共有を行うことができた。②生活・総合という教科を通して、材との出会いを大切にし、子どもが主体的に問題を解決しようとする姿や対話を通して思いを表現する姿が、発達段階ごとに見られた	A
豊かな心	①だれもが、安心して、豊かにを基盤にした学校づくりを推進し、栽培や生き物体験活動等を充実して、豊かな感性を育む教育の充実を図る。②縦割り異学年交流活動を進めることで、友だちや自分のよさに気づき、個性の伸長や自己肯定感を共に高め合う子どもを育てる。	①感染症対策で活動が制限される中、工夫や対策を行いながら自然に触れ、命を感じる栽培・飼育活動等で、心や感性を育む活動を進めた。 ②時間・空間が制限され何度も計画の変更を余儀なくされながらも、高学年児童を中心に内容の濃い異学年交流活動を行うことができた。	B
健やかな体	①集会や中休みを活用して体力づくりにつながる取組（いきいきキッズ、縄跳び大会等）を行い、運動の思考力やコミュニケーション力の育成、達成感や成就感を味わい自尊感情を高める。②子ども主体の運動会を計画し、生涯にわたり体力向上に取り組む心情を養う。	①短縄週間などを通して、実施可能な方法を工夫しながら、全校児童が楽しんで運動に取り組む機会を作ることができた。②運動会委員会の活動を中心に、準備、当日の運営に主体的に関わった。児童が意欲的に様々な工夫をして運動会をよりよいものにしようとする姿が見られた。	B
特別支援教育	①子どもの実態や保護者の願いを踏まえて個別の教育支援計画を立て、継続的な支援ができるように校内支援体制を整備し、それぞれの子どもや保護者のニーズに合った丁寧な支援を行う。 ②通級指導教室や関係機関と連携して、様々な相談、支援が行えるようにする。	①児童支援専任が、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成漏れがないよう、進捗状況の確認と、作成の声掛けを行った。計画に基づいて継続的な支援を行った。②療育センターにコンサルテーションを依頼したり、通級指導教室の教員と相談したりするなどして連携に努め、支援に生かした。	A
地域連携・学校運営協議会	教育活動への保護者、地域人材等の教育力の活用、地域行事や地域奉仕活動への児童、教職員の参加などの取組を計画的に実施し、開かれた学校づくりを進める。学校HPを充実させ、学校の様子や取組を地域や保護者と共有すると共に、学校地域コーディネーターの行う事業を推進する。	コロナ禍なので、例年と比べ地域の方と関われる機会は少なかったが、総合的な学習の中で、地域の方からご指導いただいたり、区役所の方にプレゼンをしたりと、できることを考え活動した。引き続きHPでの学校教育活動の発信や紙面での教育活動の振り返りの発信を行った。	A
安全管理	①子どもが安心して安全に学校生活を送ることができるように、設備の点検や安全な教育環境の整備に努める。②登下校の交通安全及び不審者侵入防止等の安全対策、災害時の避難訓練等の対応を全教職員が計画的・協働的に図る。	①専任が朝会で交通マナーについて話をする機会を何度か設けた。②登下校の安全を確保するために、横断歩道における交通安全の見守りを充実させた。なかなか避難訓練を実施することはできなかったが、各クラスで担任が安全教育を行い、安全意識の向上に努めた。	B
いじめへの対応	①月1回の定期的いじめ防止委員会を柱に緊急いじめ防止委員会を併設し、該当児童から丁寧に聞き取りを行い再発防止を職員全体で考え対応に努める。 ②年1回の全職員を対象とした研修と年1回の児童アンケートにより、日々の児童の生活全体に注意の目を配り、未然防止に努めるとともにいじめを見逃さない体制づくりを行う。	①いじめ案件が発生次第緊急いじめ防止委員会を迅速に行い、即日対応を行うことができた。聞き取りや情報収集においては専任だけでなく複数対応で丁寧に対応できた。月一回の定期会議では全校理解を図り対応を統一した。②アンケート結果に基づき気になる児童も含めて専任、担任で個人面談を実施し状況把握や未然防止に努め、職員会議において全校職員の共通理解を図り対応を統一した。	A
人材育成・組織運営（働き方改革）	①学年研や重点研究、メンター研修等を充実させ、教科指導力や学級経営力、児童理解力を高め、教職員の人材の育成と指導力の向上を図る。②学年やブロック内での交換授業や合同授業、教科担任制等、柔軟な指導体制を取り入れ、子ども一人ひとりに応じた指導の充実を図る。③事前に資料を配付するなどの工夫で会議の効率化を図り、グループウエアの活用で情報の共有化を一層進め働き方改革につなげる。	①経験の浅い教員同士のよい関係づくりと校内研修の充実により、各分野で活躍する教員から、質の高い学びを得られ、児童にも返ったという実感をもてた。②初任研授業では、子どもの実態をもとに一緒に教材研究を行い、教科指導力の向上を図ったとともに、経験豊富な先輩教員から指導・助言を受け、充実した学びの機会となった。③グループウエアによる情報の共有化を継続するとともに、次年度引継ぎ資料を充実させることで、働き方改革をより意識することができた。	B
ブロック内評価後の気付き	令和3年度は、昨年度同様、感染症拡大防止対応のため、児童生徒交流日などの交流活動は実施を見合わせた。その中でも、子ども会議では、直接会って話し合いをすることができた。その他にも、人権標語の作成掲示して児童生徒間の交流を図った。教職員は、人数を制限した中、互いに訪問して児童生徒の様子を把握できるようにした。地域行事が中止となったため児童が参加できなかったが次年度は感染症拡大防止に努めつつ、可能な限り、児童生徒、職員間の交流や情報共有を図りたい。		
学校関係者評価	コロナ禍であっても、子ども達は楽しそうに登下校をしており、公園などでも元気に過ごしている。生活科や総合的な学習で関わった子ども達からは、学習に対する熱心さと同時に、地域とのつながりを大切にしていることも伝わってきた。まだ挨拶ができていない子どもも多いが、まずは保護者の意識も変えていく必要があると思われる。地域の高齢化が進む原因として、大人になるにしたがって地域から離れていく現状があるため、地域のよさや地域の歴史を学校でしっかりと学んで、地域に住み続けたくなる子どもを育ててほしい。		
中期取組目標振り返り	途中、休業延長や分散登校がありながらも、可能な範囲で地域とのかかわりを大切にし、生活科、総合的な学習の時間を核とした体験的な活動や問題解決的な学習に取り組んだ。学校教育目標スローガンである「自分大好き」「みんな大好き」「ひとみかがやく西が岡の子」の育成を目指してきた結果、一定の成果を得ることができた。今後は、さらに全教職員の学校運営への参画意識を高めるとともに、学校運営協議会、地域学校協働本部（西が岡サポーターズ）との連携を深め、地域とともに子どもを育てる教育活動を推進していく。		